

平和と繁栄の回廊構想10周年記念イベント
「JAIPの未来・・・チャレンジと機会」
(4月23日, 於:ジェリコ)

アビール・オウデ経済庁長官,
ナビル・サッラーフ J A I P C o . 理事長,
ハイサム・カヤリ・パロレア社社長,
ご列席の皆様,

再びジェリコの地を訪れる機会をいただき、大変うれしく思います。
パレスチナ関係者からのご招待に感謝します。

3年前に私がジェリコ農産加工団地（J A I P）を訪問した際、
ここは、地平を臨む広大な土地でした。しかし今、私は3年前に思
い描いた夢が現実のものとなっていることを目にしています。パレ
スチナ企業6社が稼働し、生産を開始したことは大変感慨深く思
います。経済発展という果実がいよいよパレスチナの市民の皆様のも
とに届く段階に入ったものと確信します。これまでの関係者の努力
を称えたいと思います。

J A I Pは、2006年に日本が提唱した「平和と繁栄の回廊」
構想の旗艦事業として2007年に開始したものです。ここまで至
るのに10年を必要としましたが、J A I Pの未来を私は楽観して
います。今やJ A I Pはパレスチナの人々の希望の一つとなりました。
これまでイスラエル、ヨルダンの協力を得て、四者で協議を重ね
つつ、根気強く取り組んでまいりました。まさに日本ならではの
息の長い取組であります。今後の更なる発展に向けて様々な課題は
あります。他方、これまでに築いた関係者間の協力は、年輪を重ね
た幹の如く、揺らぐことのない太さとなりました。日本は、J A I

Pの発展とともに歩み，見守り続けます。

オスロ合意から24年，未だ和平が実現しない現状には，日本を含め国際社会は心を痛めています。ただし，中東和平問題の現状に悲観してばかりはいられません。我々には，直面するチャレンジをチャンスに変えていく思考が必要ではないでしょうか。

日本は，1993年以降，約18億ドル近い対パレスチナ支援を実施してきましたが，特に力を入れてきたのは国造り支援です。将来必ず訪れる真の問題解決の時に備え，今，パレスチナ自治政府には，この国造りに貪欲に取り組んでいただきたい。パレスチナの優秀な若者に国家建設への関与を求めない手はありません。J A I Pは，希望をつなぐ一つのモデルに過ぎません。将来，パレスチナ人自身の手でJ A I Pが運営されるだけでなく，第2，第3のJ A I Pがパレスチナ人の手で作られ，発展していくことを期待します。日本は喜んでその後押しを行っていきたいと思います。

70年以上前に戦火を交えた米国との和解，戦後の荒廃からの奇跡的な復興を経験した日本だからこそ強調します。平和と繁栄を希求すれば，パレスチナがこの地域で誇れる国家を必ずや建設することができると。そしてJ A I Pは，必ずやそのための一助となります。パレスチナの更なる発展と，パレスチナ市民の幸福に向け，これからも日本は寄り添ってまいります。

(了)